

HbA1c

食事の影響を受けない糖尿病検査！

HbA1cとは、血液中のヘモグロビンにくっついたブドウ糖のことをいいます。過去1～2ヶ月の血糖値を反映するので、当日の食事の影響は受けません。

異常を示す主な病気

糖尿病、インスリノーマ(膵島線種)

血糖

糖尿病検査の決め手に！

血糖とは血液中ブドウ糖のことをいいます。糖は身体のエネルギー源として利用される大変重要なものです。通常血液中ではほぼ一定量に保たれていますが、食後には一時的に高い値を示します。血糖が高くなると、膵臓から分泌されたインスリンが血糖を下げる働きをします。このインスリンが不足したり、働きが悪かったりすると、血糖が下がらずに糖尿病になります。食事の影響を受けます。

異常を示す主な病気

糖尿病、インスリノーマ(膵島線種)

AST・ALT(GOT・GPT)

肝臓の異常に敏感な反応を示す酵素

AST(GOT)

心筋、肝臓、骨格筋、腎臓などに多く存在し、これらの臓器に異常が起こるとASTにもすぐに異常が現れます。肝臓障害、心筋梗塞、溶血などを診断する上で重要です。

ALT(GPT)

特に、肝細胞の変性や壊死に敏感な反応をするのでASTとともに肝臓・胆道系の病気の診断に欠かせません。

※両者の比率は診断上重要な目安になります。

異常を示す主な病気

急性肝炎、慢性肝炎、アルコール性肝炎、脂肪肝、肝硬変、肝ガン、劇症肝炎、心筋梗塞

γ-GT(γ-GTP)

アルコールによる肝臓障害に敏感

γ-GTは肝細胞膜の胆汁分泌側および肝細胞内にあります。様々な化学反応を行うミクロソーム上や細胆管などに存在し、アルコールや薬剤などが肝細胞を破壊したり、結石、ガンなどで胆管が閉塞したときに値は増加します。特にアルコールに敏感です。

異常を示す主な病気

アルコールによる肝臓障害、肝臓や胆道の病気

中性脂肪

LDLコレステロールと並ぶ動脈硬化の原因に

皮下脂肪として蓄えられている大部分が中性脂肪で、多くなりすぎると動脈硬化性疾患の危険因子となります。糖分や脂肪分を必要以上に摂り、エネルギーが過剰に摂取されると上昇します。

異常を示す主な病気

家族性高リポ蛋白血症、クッシング症候群、甲状腺機能低下症、糖尿病、肥満、アルコール性肝障害

HDLコレステロール・LDLコレステロール

HDLコレステロール

動脈硬化を防ぐ善玉コレステロール

余分なコレステロールを肝臓に戻すコレステロールです。HDLコレステロールが多いと血管にコレステロールがたまりにくく、動脈硬化の予防に働くため善玉コレステロールと呼ばれます。

LDLコレステロール

動脈硬化の原因悪玉コレステロール

肝臓から体の各細胞にコレステロールを運ぶ役割をもつLDLコレステロールは、体にとって必要なものです。しかし、LDLコレステロールがいつまでも血液中にあると、酸化されて血管の壁にくっついてしまいます。これが動脈硬化の原因となるため、悪玉コレステロールと呼ばれます。HDLコレステロールとLDLコレステロールのバランスが大切です。

異常を示す主な病気

動脈硬化、高血圧、糖尿病、高脂血症、心筋梗塞、脳血栓症